豚 肉 情 勢

10月11日 更新　　JA全農ミートフーズ株式会社

項目		内容
供給	1.国産	○ 8月の全国豚と畜頭数は、1,300千頭と前年を下回った(前年比98.4%)。 地域別と畜頭数(数値は前年同月比);北海道100.6%、東北98.1%、関東97.6%、北陸甲信越96.7%、東海97.1%、近畿86.2%、中四国102.2%、九州・沖縄98.8% ○ 9月の全国と畜頭数は、1,260千頭(速報値9月30日まで集計、前年比92.8%)と前年を下回る見込みとなった。 なお、稼働日数は昨年と同様で、1日当たりの平均と畜頭数は62,990頭(前年実績:67,852頭/日、前年差▲4,862頭/日)となった。 ○ 肉豚生産出荷予測(農水省食肉鶏卵課;9月22日付け)によると、10月;1,450千頭(前年比104%)、11月;1,479千頭(同100%)、12月;1,484千頭(同102%)、 令和6年1月:1,420千頭(同103%)、令和6年2月:1,319千頭(同101%)であり、今後5か月間の合計頭数は前年比約102%と上回る。
	2.輸入	○ 8月の輸入通関実績は、豚肉全体で73.9千ﾄﾝ(前年比85.4%、前月比98.7%)と前年を下回った。 内訳は、チルドが35.5千ﾄﾝ(前年比104.7%、前月比117.0%)、フローズンは38.5千ﾄﾝ(同73.0%、同86.2%)となった。 国別でみると、チルドではカナダ、メキシコが増加したものの、米国が減少した。フローズンでは、すべての国で減少した。 (参考)形態別相手国別輸入数量 チルド　　;カナダ17.9千ﾄﾝ(前年比113.9%)、米国13.7千ﾄﾝ(同85.6%)、メキシコ3.8千ﾄﾝ(同180.5%) フローズン ;スペイン11.7千ﾄﾝ(前年比62.4%)、メキシコ8.0千ﾄﾝ(同89.3%)、デンマーク3.8千ﾄﾝ(同52.9%)、チリ2.9千ﾄﾝ(同97.3%)、アメリカ2.8千ﾄﾝ(同81.5%) ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(9月27日公表)によると、9月の輸入量:72.1千ﾄﾝ(前年比99.4%)および10月の輸入量:71.8千ﾄﾝ(同94.8%)と9月、10月ともに下回る。 チルドは、メキシコ産の輸入量が増加した事、前年のカナダ産の輸入量が少なかった事から、9月、10月ともに前年を上回ると見込まれる。 フローズンは、国内の輸入品在庫量が多いこと、欧州産の現地相場高騰から、9月、10月ともに下回ると見込まれる。 令和5年 9月:合計72.1千ﾄﾝ(前年比99.4%)、チルド31.2千ﾄﾝ(同106.1%)、フローズン40.9千ﾄﾝ(同94.9%) 令和5年10月:合計71.8千ﾄﾝ(前年比94.8%)、チルド31.1千ﾄﾝ(同110.3%)、フローズン40.7千ﾄﾝ(同85.6%) 直近3か月(8月～10月)平均:合計73.5千ﾄﾝ(前年比93.9%)、チルド32.5千ﾄﾝ(同106.6%)、フローズン41.0千ﾄﾝ(同85.8%)
需要	1.家計消費	○ 総務省発表の8月度家計調査報告によると、全国二人以上の1世帯当たり豚肉購入数量は1,737g(前年比96.7%)、支出金額が2,681円(同99.6%)となり、 購入量は前年を下回ったが、金額は前年並み。(※2019年度比:購入量 106.6%、金額 114.8%)
	2.小売動向 9月概況	○ 日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の8月の販売統計速報によると、畜産部門の売上高は1,228.4億円(前年比102.7%、既存店ベース101.7%)と前年を上回った。 国産牛価格が落ち着き、お盆時期の焼肉需要、週末の高単価商品は好調だったが、その他の時期は苦戦した店舗が多い。豚肉は、小間切れや挽肉など普段使いの商品を中心に好調。 国産豚の動きは良い。鶏肉はむね肉を中心に好調。加工肉は値上げの影響で不振、ギフト関連も低迷した。売上高は確保できても利益が出にくい状況が続いている。 ○ 日本チェーンストア協会が公表した8月販売概況によると、畜産品の売上は897.3億円(店舗調整後で前年比101.1%)となり、前年を上回った。 豚肉、鶏肉の動きは良かったが、牛肉の動きは鈍かった。鶏卵、ハム・ソーセージの動きは良かった。
	9月概況	○ 月前半は、酷暑の影響などから生育が遅れ出荷頭数が伸び悩んだことや学校給食の再開などにより需給がひっ迫した。 3連休後は、気候が穏やかになったこともあり出荷頭数が徐々に回復したことで需給が緩んだ。
	3.加工肉 仕向量	○ 日本ﾊﾑ･ｿｰｾｰｼﾞ工業協同組合発表の8月の豚肉加工品仕向量は26.8千ﾄﾝ(前年比91.3%)と、加工品の値上げによる販売不振は続き、前年を下回った。 内訳は、国産原料5.0千ﾄﾝ(前年比92.8%)・輸入原料21.7千ﾄﾝ(同91.0%)で、国産・輸入原料ともに前年を下回った。 なお、上記仕向量とは別枠のシーズンドポークは9.7千ﾄﾝ(前年比95.8%)と、下回った。
在庫	1.在庫	○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(9月27日公表)によると、8月末の推定期末在庫量は238.7千ﾄﾝ(前年比104.6%、前月比99.1%)となり、前年を上回った。 内訳は、輸入品;217.7千ﾄﾝ(前年比104.7%、前月比98.9%)と前年を上回り、国産品;21.0千ﾄﾝ(同103.3%、同101.0%)と前年を上回った。 また、今後の期末在庫は、9月が230.7千ﾄﾝ(同103.0%)、10月が221.8千ﾄﾝ(同102.8%)と、いずれも前年を上回って推移するものと見られる。
枝肉相場	1.R5年9月 速報値	○ 9月の東京市場枝肉卸売価格(速報値;9月30日時点)は、700円/kg(前年比109.9%)と前年を上回った。 9月の枝肉相場は、月前半が8月から続く酷暑により、各地で肉豚の生育遅れなどから出荷頭数が少なく、学校給食の再開などもあり需給がひっ迫し高値で推移した。 3連休以降は、徐々に気温が低下したことで肉豚出荷頭数が増加したため、需給が緩み弱含みで推移した。月平均では前月は下回ったものの、前年を上回る水準となった。
	2.予測 R5年10月	○ 10月の枝肉相場は、鍋物需要が本格化する時期となるものの、消費者の生活防衛意識の高まりなどから、消費の伸び悩みが予想される。 また、供給面では徐々に気候が穏やかになることで肉豚生育が進み出荷頭数が前月より増加する見通しであることから、需給が緩み弱含みで推移するものと見込まれる。

＜相場予想: 東京市場、税込み＞	8月実績	9月速報値	10月予測	11月予測
【上物】(前年比)	714円/kg(110.9%)	700円/kg(109.9%)	630円/kg(102.8%)	590円/kg(104.4%)

備考

国内生産量の推移　(千頭:%)

暦年	国内と畜頭数 千頭	前年比
R1年	16,320	99.3
R2年	16,686	102.2
R3年	16,836	100.9
R4年	16,577	98.5
R5年　5月	1,366	103.2
R5年　6月	1,327	99.1
R5年　7月	1,247	99.7
R5年　8月	1,300	98.4

農水省出荷予測　(千頭:%)

暦年	出荷予測 頭数	前年比
R5年 9月	1,357	100
R5年 10月	1,450	104
R5年 11月	1,479	100
R5年 12月	1,484	102
R6年 1月	1,420	103
R6年 2月	1,319	101

輸入量の推移　(ﾄﾝ・%)　財務省:通関実績

暦年	輸入数量 ﾄﾝ	前年比	チルド数量 ﾄﾝ	前年比
R1年	958,963	103.7	407,360	100.1
R2年	891,807	93.0	416,334	102.2
R3年	903,455	101.3	420,361	101.0
R4年	977,158	108.3	403,854	96.3
R5年 5月	89,800	115.9	35,080	130.9
R5年 6月	81,422	91.1	30,998	87.9
R5年 7月	74,924	90.2	30,294	98.0
R5年 8月	73,930	85.4	35,456	104.7

家計消費量　(ｸﾞﾗﾑ, 円, %)

暦年	全国1世帯当り 数量	前年比	金額	前年比
R1年	21,178	98.4	29,637	96.9
R2年	22,973	108.5	32,861	110.9
R3年	22,559	98.2	31,892	97.1
R4年	22,297	98.8	32,487	101.9
R5年 6月	1,774	101.7	2,681	106.8
R5年 7月	1,765	101.1	2,698	104.2
R5年 8月	1,737	96.7	2,681	99.6

加工品仕向量　(千ﾄﾝ・%)

暦年	加工品仕向量 千ﾄﾝ	前年比
R1年	372.1	98.8
R2年	376.7	101.5
R3年	379.4	100.6
R4年	368.5	97.4
R5年 5月	27.6	92.3
R5年 6月	29.5	95.9
R5年 7月	27.8	89.7
R5年 8月	26.8	91.3

市況の推移(東京市場)(円/kg・%)

暦年	豚枝肉「上物」(税込み) 円／kg	前年比
R1年	524	101.2
R2年	561	106.9
R3年	546	97.3
R4年	582	107.0
R5年6月	697	106.6
R5年7月	679	102.4
R5年8月	714	110.9
R5年9月速報値	700	109.9